

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300105		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家七隈		
所在地	福岡県福岡市城南区七隈7-8-15		
自己評価作成日	平成26年1月26日	評価結果確定日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvCd=4091300105-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成28年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家七隈に関わる全ての皆様が笑顔で楽しく過ごしていけるホーム作りを大事にしています。ご入居者様の今まで過ごされてきた人生を大切に、お一人それぞれのちからを信じて出来ることへの支援をさせて頂きながら生きがい作りのお手伝いや、昔から馴染みのある習慣に配慮し、季節折々の行事参加や地域交流を深め、安全・安心感のある生活を送って頂きます。またグループホームという役割を理解し、地域における高齢者や認知症の方への理解を深められる機会へ繋がる支援や地域の方々への生きがい支援も担っていき、地域に根ざしていけるホーム運営を行います。また家族様とご入居者様への関係づくり継続支援や家族会の役割も果たす重要性に配慮させて頂きます。そして何より、ご入居者様・家族様・地域の方・職員・関係機関の方々等がたのしい家七隈という大きな家族の中で、共に考え・みんなで助け合っている関係構築を図っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が始めた『七隈カフェ』では、参加する入居者はもちろん外部の高齢者の方々にとっても、おしゃべり等の交流ができる憩いの場として発展し、参加者は30数人と増え、地域とのつながりが深くなってきている。グループホーム協議会での事例発表・地区での講演も実施しており、地域密着型サービスの介護の質を上げようとする職員意識が高い。今後は地区の介護の輪が広がるように、地域密着サービス部会(城南区)で自治体に「認知症110番」の構築を進めている。法人内の職員間の『ありがとう・ほめカード制度』を利用し、加点方式で職員を評価することで、職員のモチベーションアップに繋がっている。笑顔で入居者に接しているスタッフは、ここで働くことが楽しいと話している。家族は事業所で四季折々の行事がされていることを喜び、フロアの壁にはスタッフの得意分野を活かした、行事参加や日々の生活場面での笑顔の写真がたくさん貼ってある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい f 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「七隈の誓い」として施設の理念をかけた、夕方の申し送りで読み合わせを行っている。また、地域の行事に参加したり、近隣の住民に施設行事への参加を呼びかけ、参加していただいている。	事業所理念を、スタッフが共有して日々の業務に当たり、地域密着型介護サービスを実践している。開設時から「七隈の誓い」をもとに地域に根付くようにしているが、今後更に部分的な見直しを視野に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に、近隣の学校のボランティアに演奏や芸を披露していただいている。また、公民館などで行われる演奏会や文化祭などにご入居者様と参加している。	自治会に入り地域集會に参加して、顔なじみになってきている。この事業所が始めた「七隈カフェ」には30数人が参加しており、地域の方、高齢者夫婦の方が集まり、おしゃべりできる場所を提供して地域に深く根付いてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の自治会から依頼を受け、認知症の人やそのケア等について、地域住民へ講演をしたり、また七隈カフェを毎月1回当施設内で開催する事で、実際にご入居者様と地域の方々、家族様、関係機関の方々等との交流を図れる機会を持っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ご入居者様・家族様・自治会長様・包括・社会福祉協議会・居宅介護支援事業所・他地域密着型サービス事業所・当社スタッフ・行政等の参加の元、サービス内容や当施設の課題、アンケート実施等で得た意見等をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、多くの方々が出席しており、事業所の様子を包み隠すこと無く報告して、抱えている問題に多方面から意見・情報を出してもらっている。議事録に入居者、家族からの率直な意見が出されている記録もあり、できるだけの対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接、市に当スタッフが外向いて質問・相談等をしたり、運営推進会議や他事業所での運営推進会議・区地域密着型サービス部会・七隈カフェ等にて交流を図りながら当施設の様々な実態を伝え、協力関係構築に努めている。	社会福祉協議会が、介護者の集いを開催する時には、その間利用者と一緒に時間を過ごし協力をしている。他のグループホームの会議に参加し情報交換したり、安心安全な地区を作るよう、「認知症110番」(仮称)を自治会へ働きかけている。	今後さらに、地域の介護力を上げていくためにも、地域密着型サービス部会(城南区)で現在検討している「認知症110番」の、実現に向けて構築されることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回身体拘束についての社内研修を行い、身体拘束にあたる内容理解、拘束をしないケアへの取り組みに努めている。	車椅子の入居者に対しては、出来るだけソファ・椅子に座って過ごせるよう身体拘束しない支援をしている。法人内の研修計画は年間を通して決めてあり、管理者、スタッフ皆が研修を受けていて、理解しながら身体拘束しない支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待の防止についての社内研修を行い、虐待にあたる内容理解・虐待をしないケアへの取り組みに努めている。また会社から虐待防止に関連するアンケート実施もあり、適宜チェックする機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や後見人制度を活用されているご入居者様がいる為、学ぶ機会がある。	現在入居者に数名の制度利用者がおり、管理者を始めスタッフが関わっている。どの現場スタッフも、理解しながら後見人や担当者に橋渡しできるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際はきちんと不安や疑問点等をその場で尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また改定等の際は運営推進会議や文書、口頭等でその旨を伝えることもしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や当社からのサービス満足度アンケート実施、意見箱の設置等を行いながら、常に意見や要望を聞ける環境づくりに努めている。	家族からスタッフの顔と名前が一致するように、全スタッフに名札を付けて欲しいとの要望があり、対応している。事業所では一人の主治医で入居者を診てもらっていたが、二人体制が良いとの家族の意見をくみ取り実践している。満足するサービスが提供できるように検討する体制ができている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階における毎月のミーティングや全体会議、適宜の個別面談、弊社からの職員満足度アンケート等を行い意見交換の場を設けている。	法人内でスタッフの意見・要望を吸い上げる体制が作られている。フロアーに3台の加湿器がすでに置いてあるが、更にもう1台追加を希望する意見がスタッフから出ていて検討している。入居者のことについてスタッフ同士で交換ノートを使い、細かくフォローしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課(誰伸び制度)での加点主義に伴う評価にて給与水準が決定する。やりがい支援では外部研修参加促進や資格取得に対するフォロー体制等の環境整備を図っている。また個々の意見を聞いたり、会議等で他事業所の良い効果がある業務改善の取り組み等を参考にし、働きやすい職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしており、各個人の良い部分を見つける配慮を心がけている(定年制度撤廃)また当社のほめる社風により、ありがとう・ほめカードやコーチング研修等を通して、職員がやりがいをもって働ける様に努力している。	事業所のスタッフは、入居者に笑顔で対応しており、スタッフ自身楽しく働けていると話している。22歳から75歳のスタッフが事業所で介護支援に従事し、得意分野を活かして、入居者の様々な表情を捉えた写真が多く壁に貼られている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	社内における人権研修の機会や日々の申し送りやミーティング、会議等で人権侵害が起こらない様、ディスカッションし、相手の立場になって物事を考える視点を大切にしている。また社内の賞罰委員会での事案を通して、適宜各個人レベルにても人権尊重に対するの振り返りを行っている	管理者は、認知症の理解をしてもらうために、地域で講演している。他県での人権侵害の事例を基に法人内で全員にアンケートを実施して育成教育している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内における決められた研修や社外での研修、また社内において随時開催される技術研修等、様々な情報を回覧板や口頭にて提供し、機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区地域密着型サービス部会や他施設の運営推進会議参加、また近隣施設との集まりの開催、地域と社会福祉協議会主催の介護者の集い等に参加や運営補助、在宅医療多職種連携会議参加等を行う事で、相互の情報交換や勉強する機会の確保し、サービスの質向上を図ると共にネットワーク作り、拡大努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント等において、ご本人様の希望、想いが聞けるよう話しやすい環境づくりに配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント等において、ご家族様の希望、想いが聞けるよう話しやすい環境づくりに配慮している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が、現時点で何を必要としているのか要望等の理解に努め、他のサービスも視野に入れながら対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、日常の手伝いやあいさつなど、その方に出来る事をみつけていただき助け合いながら一緒に生活するという目線で支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況に合わせて、密に連絡を取りながら関係作りをはかり、共にご本人を支えていけるよう支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の店に買い物や食事にでかけるなど、ご入居者様の希望を出来る限りかなえらるよう努めている。	地域のふれあいサロンに、入居前から行っていた入居者と共に数人がサロンに入り関係継続されている。「ななくマップ」と書かれた事業所まわりの地図がユニット入り口に貼ってあり、普段利用している所などを分かりやすく書き、ここでの生活が続いていけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、うまくコミュニケーションがとれ孤立しないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても便りを送ったりなどし、何か必要な際は相談や支援を行う事を伝え、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様等から情報をいただき、また普段のかかわりの中で趣味、趣向を引出し、ご本人様の希望に添えるように努めている。また困難な場合は本人本位に検討している。	入居時の情報を参考に、日常の関わりの中から、把握するようにしている。意思疎通が困難な場合は、表情などから思いをくみ取るように努めている。入居前の趣味活動の継続を支援したり、思いはあっても、できなくなってしまった現実との折り合いにも対応できるように、全スタッフで情報共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様、ご本人様との関わりの中で、情報を引出し把握出来る様努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやミーティング、連絡ノート等を活用し、お一人様ごとの過ごし方、心身状態、有する力等を把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様との日々の関わりの中での気づきや、ご家族様等との話し合いにより、現状に即した介護計画を作成している。	日常の関わりや家族からの意見、連携医・訪問看護師の意見を参考に、ミーティングで話し合って計画を立てている。最近入った入居者がまだ環境に馴染んでいないため、担当者を中心とした全スタッフによる情報収集や、タイムリーな計画の見直しに取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録の他に、連絡ノート等を活用し、職員間で情報を共有している。またミーティング時に介護計画について話し合い見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズに対応ができるように既存概念に捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括、地域住民他、様々な地域のマンパワーを利用できるように配慮している。公民館での体操や文化祭などの参加。自治会でのイベント参加他。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と本人、家族の関係構築が図れる様に、希望を大切にもらいながら医療を受けられる様、医療機関とのコミュニケーションや情報の共有化に努められる様に配慮している(診療前の情報提供や日々の報告・相談等)	かかりつけ医は、本人や家族の希望に沿って対応している。家族の支援で以前のかかりつけ医に通院している場合もあるが、複数の医療機関が行っている訪問診療を受けている入居者も多い。医療管理の面では、訪問看護師との連携で情報共有が強化され安心感がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面で職員が気づいた事は適宜訪問看護師や往診の看護師へ報告し、異常の早期発見・対応に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側へ入院前の施設内での健康面に関する情報提供、また面会時の情報は往診医や看護師、家族へ情報提供するなどし、早期退院に向けて配慮している。また病院関係者との関係づくりが行えるように、地域医療連携室などへ顔を出すなどする様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にあり方についてはふれ、その時期になれば早い段階から医療機関や家族、施設などで看取りの方針を決め、チームでその方針を共有しながら、本人や家族の希望に沿える援助が出来る様に努めている。	『重度化や終末期対応の指針』を作り、契約時に説明している。終末期に近づいたときは、本人・家族の意向を確認し、提携医や訪問看護師のアドバイスを参考にプランを作成し、最後まで過ごせるように事業所全体で支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやフローチャートの活用、急変や事故発生時等に対する社内研修等を通して、実践力向上に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施やハザードマップの把握等に努めている。訓練時は、地域の方への案内も行いながら協力体制構築を図れるように努め、全職員が避難できる方法を身につける様に努めている。また災害時に持参する備品セットや食料等の備蓄も行っている。	消防避難訓練の際は、隣接施設の協力で、施設の一角に逃げられるようになっている。全職員は消火器の設置場所・誘導方法や避難経路について、繰り返し学習し身につけている。また地域には、回覧板で訓練日程や参加の協力を呼びかけている。	事業所の活動が、地域の中で理解を得られ、成果も上がってきているが、消防避難訓練時の地域住民の参加が少ないとの事だった。災害時の地域の協力は不可欠なことから、積極的に協力していただけるような取組を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修をはじめ、適宜接遇研修などを受講、伝達研修を行い、周知に努めている。また不適切な対応があれば適宜各々注意し、より良い接遇等に配慮している。	接遇やプライバシー保護などの研修は、計画的に行われ、伝達学習や理解度を把握するための感想文も提出し職員の意識づけができています。排泄や入浴などの介護現場での羞恥心に対する配慮については、特に注意しあっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りのことをご本人様に選んでいただくようにして自己決定できるよう働きかけている。また思いや希望を話しやすい環境づくりを心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ではなくご本人様本位でその方のペースに合わせたケアをできるよう心掛けている。また決まった1日の流れではなくご本人様の意向に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に加え、洋服も出来る限り自身で選んでいただき好みに沿った格好ができるよう支援している。また月1回の理美容も利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の施設での食事だけでなく、外食レクやサンドイッチの日、パンの日等を設け、お一人おひとりの好みに合わせたものを提供している。またほぼ毎日、食事の準備、後片付けにはご利用者様も参加していただいている。	委託業者の食材を使っているが、必ず1品は調理作業があるので、入居者と共に調理し、手作りの汁物の味見もお願いしている。当日も、入居者が作った炒め物が並んでいた。職員も一緒に食事しており、ゆったりとした食事風景が見られた。食後は、職員のさりげない声かけで、片付けに参加する入居者が数名いた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食とティータイム、おやつ以外にも柔軟にその方の状態に合わせて必要なものを提供し、また提供の仕方にも工夫している。必要に応じて看護師や主治医等とも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科の往診を受けられる方などは歯科医師や衛生士より口腔ケアに関する助言をもらったり、看護師からの助言をもらうなどして、本人の口腔状態に適した、本人の力に応じたケアに努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や記録を参考にし、個人の排泄パターンを考慮したうえで自立支援に向けたケアを看護師等とも情報交換・共有化を図りながら支援している。	可能な限りトイレで排泄できることを目標に、把握した排泄パターンを元に、ミーティングで話し合い声掛けや見守り・誘導などの個別対応を行っている。入居前と比べると、排泄の自立レベルがアップした入居者もいる。夜間もトイレで排泄できるように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量、排便有無や形状、回数などの情報を記録管理しながら、適宜看護師と共に考えながら便秘予防や食べ物の工夫、運動への取り組み等考慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は設定しているが、汗をかいたからシャワーを浴びたい、昼間入る気分にならなかったから夕方入るなど、個々に沿った支援に努めている。また毎月変わり湯と題して、季節を感じられる入浴剤や植物・食べ物なども活用しながら入浴の更なる楽しみに配慮している。	入浴回数は概ね決めているが、回数・時間は入居者の希望に沿っている。個々人の身体状況に対応しやすいように、浴槽は可動式の個浴にしており介助もしやすい。また、毎月の変り湯で温泉気分浸っていただけのような工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明具合や室温など環境に配慮しながら個々の状況に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を参考にしながら、適宜薬剤師や看護師などに質問や確認を行いながら、服薬支援(観察なども)を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や園芸、創作、行事参加、外出、外食など様々な活動を季節を通して実施し、各個人に合わせた役割支援、楽しみごとの援助等を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物レクを企画し、そこでの外出や散歩、その他の買い物、また家族様と協力して普段行けないような所でも、なるべく希望に沿える援助を行い外出機会確保に努めている。	散歩や買物などの近隣への外出は日常的に行っている。一度にたくさんの人数は参加できないが、少し遠いところにも、職員1~2名で花見ドライブなどに行っている。また、誕生日の人には、外食できる店に行き、食べたいもの(割烹、寿司)を選んで貰い、希望に沿ってお祝いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持した方へは、家族とも相談・了解のもと財布や金庫管理などできるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いをレクレーションとして出している他、届いた手紙の返信や、電話の支援も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花やカレンダー等を飾ったり、テーブルに新聞を置いたりして生活感や季節感を取り入れている。また音楽をかけるなど居心地良く過ごせる様な工夫をしている。	窓の外を見ると、開花し始めた隣家の花木のピンクが明るい。音量を控えた音楽の流れるフロアの掲示板には、笑顔いっぱいの入居者の行事写真と職員の顔写真が貼られていた。感染症予防のため、温湿度には特に注意が払われており加湿空気清浄器も設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席やテーブル席など、思い思いに1人や仲の良い方同士で過ごしていただける環境作りをこころがけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具や飾りなどを使用し、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	居室入り口扉には、入居者と共に手作りした折り紙の飾りが、優しい雰囲気を出している。室内は明るく、希望する家具や思い出の小物・仏壇など、本人の希望に添って配置されていた。各居室にも加湿器が設置されており、入居者の健康に対する心配りが感じられた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した環境の中で、できること・わかることを踏まえて自立支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300105		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家七隈		
所在地	福岡県福岡市城南区七隈7-8-15		
自己評価作成日	平成26年1月26日	評価結果確定日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4091300105-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成28年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家七隈に関わる全ての皆様が笑顔で楽しく過ごしていけるホーム作りを大事にしています。ご入居者様の今まで過ごされてきた人生を大切に、お一人それぞれのちからを信じて出来ることへの支援をさせて頂きながら生きがい作りのお手伝いや、昔から馴染みのある習慣に配慮し、季節折々の行事参加や地域交流を深め、安全・安心感のある生活を送って頂きます。またグループホームという役割を理解し、地域における高齢者や認知症の方への理解を深められる機会へ繋がる支援や地域の方々への生きがい支援も担っていき、地域に根ざしているホーム運営を行います。また家族様とご入居者様への関係づくり継続支援や家族会の役割も果たす重要性に配慮させて頂きます。そして何より、ご入居者様・家族様・地域の方・職員・関係機関の方々等がたのしい家七隈という大きな家族の中で、共に考え・みんなで助け合っている関係構築を図っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい f 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をフロアの見える場所に掲示し、折に触れて復唱している。また会社理念は朝の申し送り時にひと月を通してコンプライアンスマニュアルの一部として復唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館や老人いこいの家での地域活動に定期的に参加し、自治会での回覧板にて地域活動情報収集に努め、施設行事として組み込んだりし、地域との繋がりを積極的にもつようにしている。また近所の保育園児との交流も不定期ではあるが図れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の自治会から依頼を受け、認知症の人やそのケア等について、地域住民へ講演をしたり、また七隈カフェを毎月1回当施設内で開催する事で、実際にご入居者様と地域の方々、家族様、関係機関の方々等との交流を図れる機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ご入居者様・家族様・自治会長様・包括・社会福祉協議会・居宅介護支援事業所・他地域密着型サービス事業所・当社スタッフ・行政等の参加の元、サービス内容や当施設の課題、アンケート実施等で得た意見等をサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接、市に当スタッフが出向いて質問・相談等をしたり、運営推進会議や他事業所での運営推進会議・区地域密着型サービス部会・七隈カフェ等にて交流を図りながら当施設の様々な実態を伝え、協力関係構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回身体拘束についての社内研修を行い、身体拘束にあたる内容理解、拘束をしないケアへの取り組みに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待の防止についての社内研修を行い、虐待にあたる内容理解・虐待をしないケアへの取り組みに努めている。また会社から虐待防止に関連するアンケート実施もあり、適宜チェックする機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や後見人制度を活用されているご入居者様がいる為、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際はきちんと不安や疑問点等をその場で尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また改定等の際は運営推進会議や文書、口頭等でその旨を伝えることもしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や当社からのサービス満足度アンケート実施、意見箱の設置等を行いながら、常に意見や要望を聞ける環境づくりに努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階における毎月のミーティングや全体会議、適宜の個別面談、弊社からの職員満足度アンケート等を行い意見交換の場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課(誰伸び制度)での加点主義に伴う評価にて給与水準が決定する。やりがい支援では外部研修参加促進や資格取得に対するフォロー体制等の環境整備を図っている。また個々の意見を聞いたり、会議等で他事業所の良い効果がある業務改善の取り組み等を参考にし、働きやすい職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしており、各個人の良い部分を見つける配慮を心がけている(定年制度撤廃)また当社のほめる社風により、ありがとう・ほめカードやコーチング研修等を通して、職員がやりがいをもって働ける様に努力している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	社内における人権研修の機会や日々の申し送りやミーティング、会議等で人権侵害が起こらない様、ディスカッションし、相手の立場になって物事を考える視点を大切にしている。また社内の賞罰委員会での事案を通して、適宜各個人レベルにても人権尊重に対するの振り返りを行っている		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内における決められた研修や社外での研修、また社内において随時開催される技術研修等、様々な情報を回覧板や口頭にて提供し、機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区地域密着型サービス部会や他施設の運営推進会議参加、また近隣施設との集まりの開催、地域と社会福祉協議会主催の介護者の集い等に参加や運営補助、在宅医療多職種連携会議参加等を行う事で、相互の情報交換や勉強する機会の確保し、サービスの質向上を図ると共にネットワーク作り、拡大努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人が思っている様々な事に対して気軽に話しやすい環境配慮をしながら、不安なこと、要望等に耳を傾け、本人の安心感がもてる環境作りや信頼関係構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族が思っている様々な事に対して気軽に話しやすい環境配慮をしながら、不安なこと、要望等に耳を傾け、家族の安心感がもてる環境作りや信頼関係構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に必要な支援を行うために本人や家族の実情や要望等を把握し他のサービスとの併用対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や出来る力を信じ、必要最低限の支援を行いながら役割支援に努め、尊敬の想いをもちながら一緒に過ごしていく者同士の関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や本人の出来る力を信じ、必要最低限の支援を行いながら役割支援に努め、両者に尊敬の想いをもちながら家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に地域活動の場に参加していた方はその生活習慣を継続できるように調整援助を行ったり、家族や関係職種等から情報収集をし、馴染みの人や場所との関係が途切れない配慮を行っている。また外出等でのそのような場所を考慮している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、個々の孤立を防ぐ為、時には職員が仲介役となって円満な関係づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても便りを送ったりなどし、何か必要な際は相談や支援を行う事を伝え、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等から丁寧に希望や意向を伺い、把握に努めている。また困難な場合は、本人本位に検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係職種からの情報収集や本人、家族からの情報把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミーティング等を通じて、個々の過ごし方、有する力の現状把握に努めている。また心身状態も医師や看護師、薬剤師等との密な連携を図りながら情報収集・把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、必要な関係者と話す機会を適宜もつ様に心掛け、申し送りやミーティング、担当者会議を通して現状に即した介護計画立案に配慮している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫等を個別記録や連絡ノート、ミーティング等で情報共有しながら実践や介護計画見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズに対応ができるように既存概念に捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括、地域住民他、様々な地域のマンパワーを利用できるように配慮している。公民館での体操や文化祭などの参加。自治会でのイベント参加他。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と本人、家族の関係構築が図れる様に、希望を大切にしながら医療を受けられる様、医療機関とのコミュニケーションや情報の共有化に努められる様に配慮している(診療前の情報提供や日々の報告・相談等)		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面で職員が気づいた事は適宜訪問看護師や往診の看護師へ報告し、異常のの早期発見・対応に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側へ入院前の施設内での健康面に関する情報提供、また面会時の情報は往診医や看護師、家族へ情報提供するなどし、早期退院に向けて配慮している。また病院関係者との関係づくりが行えるように、地域医療連携室などへ顔を出すなどする様に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にあり方についてはふれ、その時期になれば早い段階から医療機関や家族、施設などで看取りの方針を決め、チームでその方針を共有しながら、本人や家族の希望に沿える援助が出来る様に努めている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやフローチャートの活用、急変や事故発生時等に対する社内研修等を通して、実践力向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施やハザードマップの把握等に努めている。訓練時は、地域の方への案内も行いながら協力体制構築を図れるように努め、全職員が避難できる方法を身につける様に努めている。また災害時に持参する備品セットや食料等の備蓄も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修をはじめ、適直接遇研修などを受講、伝達研修を行い、周知に努めている。また不適切な対応があれば適宜各々注意し、より良い接遇等に配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを大事にし、また希望表出や自己決定ができる環境づくりを大切にしている。せかさなない介護に注力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人主体で考え、望む生活ができる支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理美容の活用やマニキュア塗り、また日々の洋服も本人の好みを大切に、選択できる声掛けや関わり方を常に考えてケアに努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けなどを一緒に行い、役割支援に繋がる様に援助し、食事の楽しみを感じてもらえるように留意している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は職員が把握し、摂取困難時は摂取できるような工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科の往診を受けられる方などは歯科医師や衛生士より口腔ケアに関する助言をもらったり、看護師からの助言をもらうなどして、本人の口腔状態に適した、本人の力に応じたケアに努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や記録を参考にし、個人の排泄パターンを考慮したうえで自立支援に向けたケアを看護師等とも情報交換・共有化を図りながら支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量、排便有無や形状、回数などの情報を記録管理しながら、適宜看護師と共に考えながら便秘予防や食べ物の工夫、運動への取り組み等考慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は設定しているが、汗をかいたからシャワーを浴びたい、昼間入る気分にならなかったから夕方入るなど、個々に浴った支援に努めている。また毎月変わり湯と題して、季節を感じられる入浴剤や植物・食べ物なども活用しながら入浴の更なる楽しみに配慮している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明具合や室温など環境に配慮しながら個々の状況に合わせた支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を参考にしながら、適宜薬剤師や看護師などに質問や確認を行いながら、服薬支援（観察なども）を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や園芸、創作、行事参加、外出、外食など様々な活動を季節を通して実施し、各個人に合わせた役割支援、楽しみごとの援助等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物レクを企画し、そこでの外出や散歩、その他の買い物、また家族様と協力して普段行けないような所でも、なるべく希望に沿える援助を行い外出機会確保に努めている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持した方へは、家族とも相談・了解のもと財布や金庫管理などできるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の制限はなく、手紙も季節の折に触れて、他者とのやりとりが出来る様にレクとしても取り組み、また定期的に本人や家族とのやりとりを継続しているケースには自由に行ってもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける環境配慮への工夫等を中心に、清潔・温度・音楽・植物(花などによる)のにおい等留意し、居心地良く過ごせる様にしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングチェアの活用、また適宜過ごしやすい空間づくりをする為に混乱を招かない程度のレイアウト変更などを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望を取り入れている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した環境の中で、できること・わかることを踏まえて自立支援を行っている。		